

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

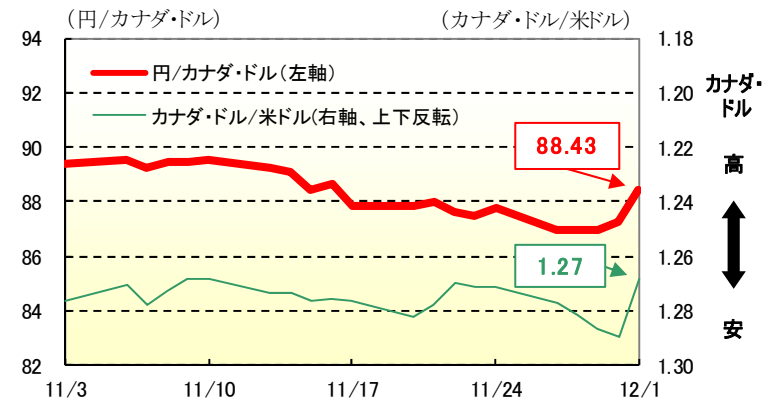
【2017年11月25日～2017年12月1日の推移】

### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円やカナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、カナダで雇用統計が発表され、雇用者数が市場の予想を大幅に上回る増加となり、失業率も2008年以来の低水準となったことが、金利やカナダ・ドル円の上昇圧力を高めました。また、四半期GDP(国内総生産)も発表され、輸出の減少などを背景に前期から減速したものの、市場予想を上回る成長率となったことも、金利やカナダ・ドル円の上昇圧力となりました。

### 【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年11月3日～2017年12月1日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

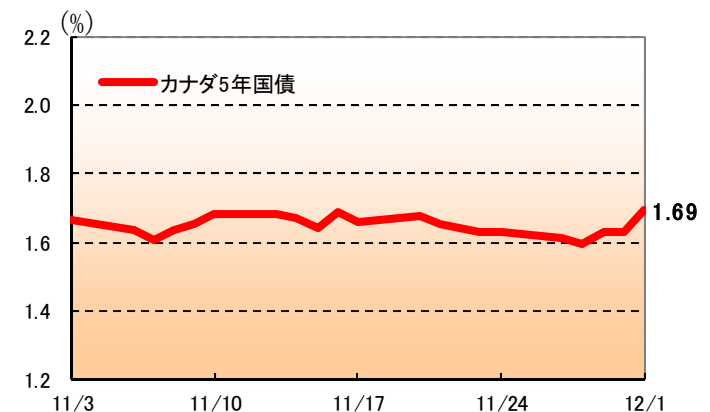
### 【2】今週の見通し

足元、原油価格は多少の調整を交えつつも堅調を維持しており、世界有数の産油国であるカナダの通貨下支え要因になると考えています。

今週は、カナダで貿易収支の発表があります。原油価格の回復から貿易赤字の縮小が見込まれ、市場予想以上の縮小幅となれば、金利やカナダ・ドルの上昇圧力になるとみています。さらに、米国でも雇用統計の発表や暫定予算および債務上限の期限の到来があり、市場の注目を集めています。

また、今週はカナダで政策金利の発表があります。カナダ経済は堅調に推移しているものの、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の先行き不透明感などから、市場では政策金利の据え置き予想が優勢となっています。

### 【カナダ 金利推移】 (2017年11月3日～2017年12月1日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>